



JACET通信

大学英語教育学会

June 2000

The Japan Association of College English Teachers

No 123

巻頭言

JACET 第 39 回全国大会沖縄大会によせて

九州沖縄支部長 名本 幹雄

20世紀最後の第39回JACET全国大会が平成12年11月3日より5日にかけて沖縄国際大学で、「東アジアと21世紀の英語教育」"English Education in East Asia for the 21st Century"という大会テーマで開催される。21世紀が「アジアの世紀」といわれ、世界の関心が無限の可能性を秘めたアジアに注がれる現在、また日本の未来はアジア諸国との共生以外にないと考えられる状況の中で、上記のテーマで大会が開催される

意義は極めて大きい。日本はアジア諸国との交流、共生を求めて積極的にアジアの国々との国際交流をはからなければならない。その様な時代のニーズに応えうる、アジアの政治、経済、社会、文化を理解し、アジアの発展に貢献できる人材を日本は育成しなければならない。

このような視点から基調講演者として、海外から台湾師範大学院教授の施 玉恵氏、韓国から韓国英語教育学会会長(6月に選出予定)をお招きする。全体シンポジウムはコーディネーターに純心女子短大教授の鈴木千鶴子氏、パネリストとして韓国から梨花女子大学名誉教授の金 榮淑氏、台湾からは上記の施 玉恵氏、シンガポールからは Dr.Christopher Ward

(Deputy Head of Specialist Dept.,RELC)、日本からは小池生夫会長等によっておこなわれる。大会テーマに相応しい国際色豊かな顔ぶれである。

21世紀のアジア諸国との共生のために、またアジアの発展に貢献できる人材を養成するための英語教育が如何にあるべきかについて多くの示唆が得られることと思われる。

本大会の研究発表、実践報告、シンポジウムも150件以上の多彩なプログラムになるようである。国際色豊かな内容の充実した全国大会が期待される。

沖縄大会は小池会長も指摘されているように、日本唯一の南の楽園でその美しい自然、歴史、伝統工芸、民族文化、伝統芸能等に触れることのできる素晴らしい機会でもある。深い緑と、珊瑚礁の透き通る海、琉球王朝の栄華を偲ばせる首里城跡、素朴な沖縄情緒を味わう赤屋根の家、あでやかな紅型、銀のかんざしで舞う優雅な古典舞踊等沖縄の魅力は語り尽くせない。学会の合間にこの沖縄の素晴らしさに触れられることをお勧めします。また太平洋戦争末期に激しい地上戦が行われた戦跡が数多くあり訪れる人達に、平和の尊さ、戦争の悲惨さを思い起

こさせ、アメリカ軍基地の存在とともに多くの問
いかけするでありましょう。

大学英語教育学会が1962年に創設されて
以来はじめて沖縄で全国大会が開催される。当
番支部として多くの会員が沖縄を訪れ、今世紀
最後の全国大会が盛大にかつ実り豊かな大会
になることを切望しております。

大学外国語教育の現状と

意識調査実施の意義

会長 小池 生夫

大学外国語教育が今日未曾有の混乱と困難
の状態になってきていることは、すでにご承知
のことであろう。現在大学によって温度差がある
ことであるが、今後10年間にどんどん状況が悪
くなっていくであろう。大学で外国語、特に英語
教育に携わっている我々は、この問題が自分自
身にとって直接かかわる問題であることを認識
し、それに対処しなければならない。

この問題は複雑である。21世紀を迎えよう
とし、国際情勢、IT革命が進行し、日本人の英語
を中心とする外国語能力のレベルの向上は至
上命令であるにもかかわらず、教室の学生たち
にそれにかなうだけの準備をさせていないの
ではないか。近隣諸国の懸命の努力、レベルの
向上に劣るのではないかという恐れがある。一
方、少子化にともなう受験者、入学者の減少は、
必然的に大学間の生存競争と学力のレベルの
低下を招いている。

しかし、大学人で最も多いと想像される英語、
外国語教育をしている人々はなにを考えてい
るのか、これに関して殆ど全国的な実状を把握
していない。これでは適切な措置をすることが
できない。これが本学会あげての実態把握の目
的である。

本部では、現在、アンケート委員会を発足さ
せ、アンケート項目の作成中である。でき上が
り次第、理事会の承認をえて、早急に実施する
予定である。その際はぜひご協力をいただき
たい。

事務局より

代表幹事 小林 ひろみ

AILA東京大会の後始末がほぼ終わり、事務
所の特別体制もこの4月より基本的に通常に戻
りました。そこでAILAの準備運営連絡に当て
ていた時間を利用して、定例の理事・研究企画委
員合同委員会の終了後に情報交換の時間を設
け、本部会員の便宜を図っています。

ところでAILAの大きな遺産の一つは、JACET
事務局のコンピュータ化が急速に進んだこと
です。あっという間に電子メールによる連絡が日
常化し、事務員1人に1台の体制となりました。
しかし、今後もファックスや郵便を使った3本立
て体制は維持する必要があります。

コンピュータ化のもう一つの問題点は、機器整
備の費用です。先月も会員住所用のコンピュー
タが突然壊れ、急遽、新しいものに買い換えな
くはなりませんでした。

代表幹事ご挨拶

この4月より、神保尚武代表幹事の後任として
代表幹事をお引き受けいたしました。様々な気
配りが必要なこの任務を果たす自信がなく、非
常にためらいました。しかし、日本の英語教育
改善をめざす学会のために少しでもお役に立
てればと考え、精一杯働かせていただく決心を
いたしました。至らない点ばかりですが、それは女
性だからではなく、個人の資質の問題ですので、
ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

(小林 ひろみ・文教大)

支部便り

<北海道支部>

1. 研究例会

日時:2月19日(土)14:00~15:00

場所:北海道大学

発表者:神 久聡(北海道薬科大)

題目:ESPサポートへの一歩―語彙レベル調査
と受講生の辞書確認の実状調査―

2. 運営委員会

日時:2月19日(土)15:00~17:00

場所:北海道大学

議題:(1)2000年度支部大会について
(2)2001年度全国大会について

日時:5月12日(土)14:00~16:00

場所:北海道大学

議題:(1)2000年度支部大会について
(2)2001年度全国大会について

3. ニューズレターの発行

第13号を3月に発行した。

(西堀ゆり・北海道大)

<東北支部>

2000年度第1回役員会

日時:4月8日(土)12:00~13:45

場所:東北学院大

議題:1999年度全国理事会報告、2000年度支部活動計画案、総会に関する件、役員人事に関する件、研究会に関する件について

支部役員の変更

支部長新任:高梨庸雄(弘前大)

評議員新任:千々岩佳史(岩手大)

研究企画委員新任:羽井佐昭彦(東北工業大)、高橋潔(宮城教育大)、宇都宮満(宮城県泉高校)、杉山恵(東北科学技術大)

電子情報化委員新任:武田淳(宮城工業高専)

支部長退任:畑中幸寛(東北学院大)

評議員退任:横田勉(山形大)

研究企画委員退任:遠藤裕一(東北学院大)、加藤和男(岩手医科大)、森山盛吉(東北学院大)、吉田孝(福島大)

研究会担当委員退任:横田勉(山形大)

今年度は支部役員の大幅な変更がなされた。長年支部長を勤められ、東北支部の発展に大きく貢献された畑中前支部長から高梨新支部長へバトンが手渡されたのを始め、評議員、研究企画委員に多くの先生方が新たに加わることとなった。新しい役員体制で4月から活動を開始した。

新しく設立された研究会

コンピュータを使った英語教育と研究(代表:成沢義雄 東北学院大、高田諭 東北学院大)

早期英語教育研究会(代表:石浜博之 聖霊女子短大、佐藤博晴 秋田公立美術工芸短大)

語彙指導研究会(代表:高梨庸雄 弘前大 千葉元信 宮城工業高専)

これに活動中の英文法研究会(代表:早坂高則 奥羽大、板垣信哉 宮城教育大)を加え、東北支部では今年度から4つの研究会が活動を行うこととなった。

例会

日時:4月8日(土)14:00~17:00

場所:東北学院大

研究発表:

(1)佐藤由美(東北学院大大学院)「英語の冠詞について」

(2)関 宮子(宮城学院女子大)「英語教材としてのTolkeinのMr. Bliss」

2000年度第2回役員会

日時:6月10日(土)12:00~13:45

場所:東北学院大

議題:支部大会について、2000年度支部活動計画日程案・予算案、その他

2000年度東北支部大会

日時:6月10日(土)14:00~17:00

場所:東北学院大

支部総会(1999年度活動報告、決算報告、2000年度活動方針案、予算案、その他)

講演

(i)小池生夫(明海大・JACET会長)

(2)古谷千里(planetLingo Inc. USA、前長岡技術科学大)「グローバルネットワーク時代におけるCALLの進化—個別化学習の実現—」

シンポジウム

テーマ:「英語教育におけるコンピュータの役割」 司会・講師:村川久子(会津大) Teaching Pronunciation on Computer Workstations.

講師:Tom Orr(会津大) Computer Applications for University Writing Courses.

講師:Mark Frieruth(会津大) On-Line Chat Applications.

(村野井 仁・東北学院大)

<中部支部>

談話会開催

2000年3月30日(土)13:30~15:00

場所:中部大学

発表者:尾関修治氏ほか(中部大学)

発表テーマ:「情報英語の実践」

役員会開催

1. 2000年1月29日(土)於 名古屋女子大学

- 協議事項:1 ニュースレターの編集と発行
2 今年度の活動予定
3 平成12年度中部支部役員について
その他

報告事項:1 今年度支部大会の会計について
2 AILA運営委員会からの入金について

2. 2000年3月8日(土)於 名古屋女子大学

- 協議事項:1 平成12年度活動計画
2 平成12年度会計予算案
3 談話会開催について
4 平成12年度中部支部役員について
その他

報告事項:1 平成11年度活動報告
2 平成11年度会計中間報告
3 ニュースレターの編集状況

3. 2000年3月30日(土)於 中部大学

- 協議事項:1 平成12年度中部支部役員について
報告事項:1 春季理事会報告
2 ニュースレターの発行
3 平成11年度会計決算案・12年度
予算案について、その他

4. 2000年5月6日(土)於 静岡大学

- 協議事項:1 平成12年度中部支部役員案
2 平成12年度全国大会司会者
その他

報告事項:1 平成11年度会計決算報告・
12年度会計予算案、その他

支部大会運営委員会開催

1. 2000年1月29日(土)

- 協議事項:1 開催日:6月10日
2 大会テーマ
3 特別講演者について
4 シンポジウムの題名、講師について
5 研究発表者の募集
6 予算
7 次回運営委員会

報告事項:運営委員会の構成・会場校(静岡大学)

2. 2000年3月8日(土)

- 協議事項:1 大会テーマ:「21世紀における英語教育を問う」
2 特別講演者
3 シンポジウムの題名、講師

題名:「21世紀の英語教育—到達目標と評価」

司会:船城道雄氏、講師:Steve Ross氏(関西学院大)・根岸雅史氏(東京外大)・鎌田修氏(京都外大)

- 4 予算
5 時間配分
6 次回運営委員会
その他

報告事項:研究発表者募集について
3. 2000年3月30日(土)

- 協議事項:
1 本部派遣理事:岡秀夫氏
2 予算
3 プログラム
4 懇親会
5 特別講演者について
6 その他
7 次回運営委員

報告事項:研究発表者

4. 2000年5月6日(土)

- 協議事項:1 特別講演について
講演者:岡秀夫氏(東京大学大学院教授)
演題:「バイリンガリズムから見た外国語能力」
2 研究発表応募者
3 会場数、司会者の配置
4 プログラム配置
5 その他
6 次回運営委員

(倉橋洋子・東海学園大)

<関西支部>

1. 1999年度第3回運営委員会

日時:2000年2月26日(土)午後2~4時

場所:京都大学文学部地下大会議室

<報告事項>

(1) 研究企画委員会の報告

2000年度春季大会について、ワークショップのあり方、研究発表要旨のHPへの掲載について、人事について、年間計画についての報告。

(2) 2000年度秋季大会について

10月14日、金蘭短期大学(吹田市)において開催することが報告。

(3) AILA寄付余剰金の支部配当について
20万円が支部会計に組み入れた旨が報告。

(4) その他:RELCに関西支部から豊田支部長が参加することが報告。

<議題>

(1) 1999年度活動および決算について

(2) 2000年度活動計画、予算案および人事案について:(1)(2)共に、原案通り了承された。

(3) 2001年度春季大会について、神戸女学院大学(西宮市)から申し出があり、了承。

(4) 2001年度秋季大会について候補校を募

集。

(5)印税等に関する検討合意の「覚え書き」の見直しについて、原案通り了承された。

2. 1999年度第6回研究企画委員会

日時:3月17日(金)13~15時40分

場所:関西大学 新関西大学会館33会議室

<報告事項>

(1)2000年度春季大会について

・シンポジウム、ワークショップ準備の進捗状況および研究発表公募状況についての報告。

・「英語教育、英語青年」への広報掲載の申込についての報告。

(2)「関西支部研究企画委員会内規」が支部長名で通達。規定4の「委員の選出は委員会で行うものとし、常勤・非常勤を問わないことが再度確認された。

(3)清水、石田、鎌田委員の退任および藤沢良行(大阪樟蔭女子大)、高橋寿夫(関西大)、山本雅代(関西学院大)が新研究企画委員に就任したことが報告された(敬称略)。

<審議事項>

(1)春季大会発表者選考

・募集方法の工夫の必要性が指摘された。

・各応募者の発表要旨の査読を行い、コメントおよび発表者への助言について意見交換。

(2)春季大会役割分担の決定

(3)その他:春季大会当日について

1)春季大会のプログラム、企画、運営について

2)懇親会とその手配について

3)アルバイトとその依頼について

4)掲示物、設備の手配と依頼について

(4)2000年度第1回研究企画委員会

春季大会当日、会場校にて行う。

3. JACET関西支部講演会

日時:5月13日(土)午後2時~4時

場所:京都市左京区、芝蘭会館

講師:Peter Stockwell博士 (University of Nottingham)

演題:「Future talk: One Small Step Towards a Chronolinguistics」

参加費: 会員・学生500円、一般1,000円

共催: プリティッシュ・カウンシル

定員: 70名

(三好康子・四天王寺国際仏教大、清水裕子・立命館大)

<九州沖縄支部>

運営委員会

1. 日時:平成12年1月22日(土)14:00~16:30

場所:西南学院大学学術研究所第2会議室

議題: 1. 2000年全国大会

2. 支部長経験者の顧問への推薦

3. AILAグッズ

報告: 1. 1999年度支部研究大会の総括

2. (支部)ニューズレター 16号の進捗状況

3. 2月の韓国KATEへの会員派遣

2. 日時:平成12年3月18日(土)11:15~12:30

場所:西南学院大学学術研究所第1会議室

議題: 1. 2000年全国大会

2. 支部紀要第5号の編集/発行方針

3. 全国理事会の報告

4. 本部役員・委員の交代

(新年度から)

報告: 1. 福田昇八元支部長の支部顧問への推薦を本部へ報告

2. 運営委員の交代

3. 支部ニューズレター 16号の3月末発刊

3. 日時:平成12年4月22日(土)13:30~15:30

場所:西南学院大学本館4階第1小会議室

議題: 1. 2000年全国大会

2. 春季学術講演会

3. 英語音声学九州沖縄支部主催の講演会への協賛

4. 次期役員交代選出原案

報告: 1. 全国理事会の報告

4. 日時:平成12年5月13日(土)13:00~14:30

場所:西南学院大学学術研究所第1会議室

議題: 1. 2000年全国大会

春季学術講演会

1. 日時/会場:5月13日(土)15:00~17:00

西南学院大学西南会館

講師:パク・マエラン博士(韓国プキョン国立大学教授)

演題:「韓国における小学校英語教育について:現在と未来」(日本児童英語教育学会九州沖縄支部との共催)

2. 日時/会場:7月8日(土)15:00~17:00

西南学院大学西南会館

講師:Lee, Hyn Bok 韓国ソウル国立大学教授)

演題:未定(日本英語音声学会九州沖縄支部主催への協賛)

(武井俊詳・西南学院大)

大学改変の現状

全国の大学でどのような改変の動きが出ているのか、各支部より報告していただくことになりました。今回は北海道支部と東北支部からの報告です。

北海道地区の現状報告

北海道支部では、大学、短大で起きている現状報告のため、予備的調査(一部の大学)ではあるが、以下の項目に関してアンケート調査を行った。

- (1)組織(大学種別、学科等)の変更
- (2)カリキュラム(コース、教育内容等)の変化
- (3)学生の変化
- (4)教員負担(コマ数等)の変化
- (5)研究の状況
- (6)その他(特記すべき変化、困難な状況、問題点等)

国公立・私立あわせて11校から回答が寄せられた。なお、同一大学であっても異なった学部は1校とした。今回の報告では、国公立・私立に分けているが、共に少子化による荒波が押し寄せている状況が浮き彫りとなっている。北海道支部では今年度の支部大会シンポジウム(6月17日)でこれらの問題を取り上げ、検討する予定である。以下はアンケート回答のまとめである。

国公立大学からの回答(4校)(以下、校数が記載されていない場合は1校からの回答)

- (1) 組織(大学種別、学科等)の変更
 - ・課程、学科の新設及び再編(2校)
 - ・名称の変更(2校)
- (2) カリキュラム(コース、教育内容等)の変化
 - ・科目数と単位数の削減
 - ・コミュニケーションという名称の増加
 - ・内容が複雑化
- (3) 学生の変化
 - ・学力の低下(2校)
 - ・大学になじめない1年生の増加
- (4) 教員負担(コマ数等)の変化
 - ・委員職、役職の増加(2校)
 - ・大学院等の負担増加
- (5) 研究の状況

- ・大学院設置等により研究の重視(2校)
- (6) その他(特記すべき変化、困難な状況、問題点等)
 - ・専門科目の履修の遅れ
 - ・パソコン、ネットワーク利用や対応に迫られる。

私立大学からの回答(7校)

- (1) 組織(大学種別、学科等)の変更
 - ・課程、学科の新設及び再編(4校)
 - ・名称の変更(3校)(知名度今ひとつで定員割れの指摘あり。)
 - ・短大の定員を大学へ提供
 - ・短大の廃止
- (2) カリキュラム(コース、教育内容等)の変化
 - ・非常勤に任せる部分が増えた。(2校)
 - ・コミュニケーションという名称の増加
 - ・英語関係科目の大幅な減少
 - ・セメスター制(履修幅拡大)を採用
 - ・多様な進路希望、学力格差に対応
 - ・外国語の必修を廃止
 - ・必修単位を削減、多様な履修を行わせる。
- (3) 学生の変化
 - ・学力の低下(4校)
 - ・新入生の基礎学力レベルの多様化(4校)(全入状態。個別指導や補習授業などが必要)
 - ・学習意欲、目的意識、日常のマナーが低下(2校)
 - ・入学者数が激減
 - ・定員減
 - ・難関校からの入学者減少
 - ・短大生の4年制編入希望増加
 - ・補習授業(基礎英語等)開講
- (4) 教員負担(コマ数等)の変化
 - ・高校・企業訪問や就職相談・面接指導で多忙。
 - ・海外研修の引率
 - ・大学院の負担増加
 - ・英語退職教官の後任補充なし
 - ・委員職、役職の増加
 - ・教員定員削減でコマ数の増加が予想される。
- (5) 研究の状況
 - ・教員格差・個人研究図書費に差(2校)
 - ・研究のための時間や精神面のゆとりがない。
 - ・教育に重点が置かれ、研究を奨励する雰囲気はない。
- (6) その他(特記すべき変化、困難な状況、問題点等)
 - ・短大受験生の絶対数の減少(2校)
 - ・来年度は学科そのものがなくなる。
 - ・見通しが良くない中での教育で良いのか。

- ・文学・語学系の不人気により実質的に選抜は困難。
- ・常に定員割れの可能性がある。
- ・学力低下対応に迫られるも非常勤等の経費は削減。
- ・英文系、国文系の学科の人気凋落。
- ・入試、国際交流、カリキュラム改革等、常に走り回っている状態で落ち着いて研究教育に努める大学らしさを失っている。

(西堀ゆり・北海道大)

東北地区の現状報告

東北の大学にも当然のことながら受験生人口激減の波が押し寄せており、定員割れの4年制大学、短大が出ている。これに伴う深刻な問題に各校頭を悩めていることと思われる。それぞれの大学の現状を一般化して正確にレポートすることはとても困難なので、ここでは私が勤務する英文学科(東北学院大)における現状と問題への対応の試みを簡単に報告してみたい。

東北学院大は長い歴史を持ったキリスト教系の私学であり、東北地方では数少ない博士課程を有する5学部13学科の総合大学である。英文学科は中高および大学の英語科教員を多く輩出しており、特に東北地方においては英語教育に大きな貢献をしてきている。しかしながら、ここ数年の入試では本学科でも受験生の減少が起きている。1学年の英文学科定員が350名という巨大さもあり、いい学生を数多く集めるためには抜本的な改革が急務であると数年前から認識され、様々な準備が進められてきた。今年度はその対策のうちのいくつかが始動した年度で、英文学科カリキュラムの大幅な改編、昼夜開講制導入および入試方法の変更などが実施された。

カリキュラム改編については、従来の英文学科の枠を超えるような柔軟なカリキュラムが作られ、文学、英語学に加え、英語コミュニケーションを専攻できる制度が今年度から動き出した。本学科では従来より英米文学と英語学以外の専門科目を履修できるようにカリキュラムを編成しており、時事英語、コミュニケーション論、比較文化などを専門的に履修できるコースを作ってきた。今回の改編では、これをさらに英語コミュニケーション系として明確に扱い、異文化間コミュニケーション論、ことばと社会、語用論、スピーチ・クリニック、実務英語などの専門科目と演

習を揃えた専門コースを、英米文学コースおよび英語学コースと並列の三つ目の専門コースとして編成した。さらに昼夜開講制も同時に導入になり、これらの昼の三コースに加え、英米文学と英語学およびコミュニケーションとしての英語を総合的に学べる夜間主コースも開講されることになった。昼間主コースとは別のユニークな講義(英語圏の文化、翻訳実践、社会言語学、メディアの英語など)が夜間主に組まれており、昼夜の相互乗り入れが可能となっている。英文学科の伝統(英米文学、英語学)を保持しながらも、英文学科を志願してくる学生のニーズにも配慮した柔軟なカリキュラムになっている。

問題なのはこの幅広いカリキュラムを動かすには幅広いスタッフが必要なことである。幸い現在は英文学科に多彩な専任スタッフが20名以上いるので、このようなカリキュラムを動かすことができるが、今後の学生数の変化によっては状況が厳しくなることは十分に考えられる。次いどのようなカリキュラム改編が必要なのか、すでに討議が始まっている。

もう一つの主な対策は入試の改革である。今年度は英文学科定員の1割をアドミッション・オフィス(AO)入試によって取ることにした。十分な基礎学力があつて、入学の意志・意欲が強い学生を面接中心で取るという方針で応募したところ、英文学科のAO定員枠に5倍を超える受験生が集まることとなった。一般入試にも変更が行われ、三教科の点数合計による評価と三教科のうち点数の高い2教科の点数合計による評価を組み合わせて、受験生にとって合格の可能性が多く生まれる形を今年度から新しく採った。一般入試(前期試験)の英文学科定員数に対して、7倍を超える志願者があつた。実質倍率で見てもこれは一昨年度、および三年前の倍率に戻るといふ好ましい結果であつた。

カリキュラム改編や入試制度変更などの対策が志願者の増加にどの程度の影響を与えたのかは明らかではないが、何らかの効果があつたと考えることはできる。単年度のデータだけではあまり意味のある分析ができないことはもちろんであるし、本校の持つ特殊性(所在地、競合する私学の少なさ、など)もあるので一般化できない要素もあると思われる。一つの地方大学の現状レポートとしてお読みいただければ幸いである。

(村野井 仁・東北学院大)

本部情報交換会

21世紀に向けての応用言語学研究のパラダイム—TESOL/AAAL報告

矢野 安剛 (早稲田大)

3月末にVancouverで開催されAAAL/TESOL 2000に参加した。まず、招待講演、シンポジウム、発表を聞いての総体的な印象は、まさに昨夏われわれがAILA 12th World Congressでテーマに掲げた「多様化」であった。それは、ヨーロッパ、アジア、アフリカ地域からの講演者の多彩な顔ぶれ、研究者、言語教育実践者、詩人、官僚などの職業的な多様さ、そしてエコロジーからチンパンジーの学習まで含む主題の多様さに表れていた。今後、応用言語学研究はますます諸関連分野の知見を取り入れながら分岐し、分野ごとに深化し、独自性を高めていくであろう。すでに、発表が隣接分野の専門家にも理解しにくくなってきている。細分化された研究が応用言語学というumbrellaのもとに収まるには、いかに相互にsymbiotic relationshipを構築し、維持し、発展させるかが今後の課題となろう。

次に、21世紀に向けてさらなる発展を遂げるために、応用言語学研究はどのようなパラダイムをもつべきであろうか。独断と偏見でまとめれば、critical, corpus, localized, symbioticの4つと言えよう。Critical applied linguisticsは言語使用を権力やイデオロギーなどの社会的、政治的な視点から見ることであり、corpus paradigmはquantitative researchが重要になることであり、localizationは個々の研究分野がdecentralizeして深化し、独自性を高めることでありsymbiosisはますます増える研究分野ごとの相互依存性から来る共生の必要性である。

さらに、言語学習・教育を活動の中心にする応用言語学研究では、言語教師教育・再教育(かつての八王子セミナーなど)、教師の質的向上、授業形態の多様化と公開性などを促進するのを助成する義務もあろう。

最後に、研究の相互依存がますます増えると予想される21世紀には、応用言語学研究の学会は内外の他学会との交流をさらに促進する必要がある。その際には、交流の目的、方法、双方にいかなるメリットがあるかなどの具体的なプランが交渉を始める前に策定されていなければならない。

月例研究会報告

「メディア・リテラシーの視点を取り入れた英字新聞読解授業」(1月)

花岡民子(青山学院大学)

花岡氏は、まず第一に、カナダの公教育で実施されている「メディア・リテラシー」(以下、ML)の中心に存在する「メディアは現実を構成したもの」「メディアはものの考え方、価値観を伝えている」「メディアは商業的意味をもつ」という概念を紹介した。カナダのオンタリオ州で始まり、今ではカナダ全土に広まり、世界各地で注目されているML教育である。メディアとの関わり方、姿勢を学校のカリキュラムを通して教えるという教育方法である。その後、メディアを通じた最新の題材をテキストに使うことが増加している大学の英語教育においても、MLの視点が重要であると主張した。英字新聞を教材として使用している読解授業では、英語の言語能力や読解ストラテジーに加えて、社会的文脈の中でテキストを読み解く能力も、市民社会を生きる大学生にとって重要な資質と言える。「メディアは現実を構成したものである」というMLの概念を学ぶには、新聞紙面全体をながめることが大切であると主張する。どの国での記事が多く採用されているかということからも、新聞社の「現実」の構成が見えてくることにも言及した。外国の英字新聞で、「日本」を読むことにより、「メディアが現実をつくる」ことが実感されること、また、東海村原発事故を例に出し、報道記事を数紙比較することにより、情報の欠落、歪みが発見できることも指摘した。

大学英语教育での応用として、MLを意識したグループワーク、プロジェクトを導入することで、英字新聞読解が英語習得の手段になるだけでなく、能動的なメディアの読み手を作り出す可能性があるという花岡氏の主張は、大学英语教員は言うまでもなく、高等学校英語教員にも受け入れられるべきものであろう。

(中尾正史・桐朋学園大学短期大)

JACET 語法研究会(4月)

司会: 小谷悠紀子(東京電気大学)

報告者: 高木道信(千葉商科大学)、森戸由久(創価女子短期大学)、Warren Elliott(千葉商科大学)、喜田慶文(東洋大学短期大学)

去る 2 月に出版した『動詞の類義語の研究—日英語の比較の観点から—』は、過去 5 年間の共同研究の成果であり、岡山大会、及び AILA での中間報告を礎石にしたものである。今回の発表は、このブックレットからの抜粋である。

森戸：1995 年に『形容詞の類義語の研究』を出版したが、今回の研究も同じ方法論と編集方法を採用している。すなわち、動詞と名詞のコロケーションについて 10 人のネイティブスピーカー(アメリカ人、イギリス人、カナダ人、オーストラリア人)にアンケート調査をして、その結果を分析している。10 人の内、6 人以上「使える」と答えれば、その用法は標準的な英語とみなせると考えている。逆に、10 人の内 5 人以上が「使えない」と答えたらその用法は使うべきでないと考えるべきである。それぞれの類義語について弁別の特徴が何であるかを認知論や統語論の観点から分析を試みている。

Elliott は、“Common Errors in the Use of Verbs by Japanese Students of English”と題して、動詞の用法に関し日本人学生に共通の誤りとして、時制・多義語の文脈に応じた訳・直訳による文意の誤解などを指摘し、類義語に関する誤用の具体例を挙げた。(例: *change*, *alter*, *modify*; *fix*, *mend*, *repair*, *remodel*, *renew* におけるカタカナ語)。母語話者の間でも類義語の選択が異なる事例も引き合いに出し、教授法の試案を述べた。

高木は「Degree of Intensity の相違に関する事例」にふれ、〈基本語 SURPRISE + 副詞(句)〉の強さの程度に関する情報を整理して不等号で示し次のようなアンケートを作成した：“Do you agree with the degree of intensity of the following verbs: *surprise* < *astonish* < *amaze* < *startle* < *astound* < *appall*? If not, please show us the order of your choice.” この回答結果を検討し、HAVE, SHAKE のセットに共通の類義語を巡る〈知と情の対立〉を指摘した。

喜田は「コーパスからみた類義語」の観点から、“～のようだ”に類する動詞 *seem*, *appear*, *look*, *sound* についてその特徴について述べた。これらの類義語動詞を OED-2 (CD-ROM)の Text をコーパスとして、*seem* を中心に 13 の Verb Form Pattern に分類し、その出現頻度、例文の容認度の分析をした。その結果から、特に *appear* と *look* における際立った対立がみられること、またこの対立は相補分布の可能性を示唆していることを指摘した。

また、フロアからの活発な発言もあった。例えば、ネイティブの参加者から、*study* と *learn* に関して、*study* は調べたり、学んだりする意味であるがその‘知識が自分の身に付いているかどうかは示唆していない’、しかし *learn* はその‘知識が身に付いていることを示唆している’との指摘があった。

なお、ブックレット第 1 集『形容詞の類義語の研究』(郵送料込み 600 円)と第 2 集『動詞の類義語の研究』(送料込み 700 円)は JACET 事務所にお申し込み下さい。

(高木道信・千葉商科大)

基本語改訂委員会発足のお知らせ

初版(1981)より各方面において大いに利用されてきた『JACET 基本語 4000』は、すでに資料が古くなり、改訂の要望が強く出ていました。

この度本部研究企画委員会内の特別委員会として改訂委員会を発足させ、委員を全国公募し、67名の委員をもって、5月27日に設立総会を開き、メーリング・リスト(電子会議室)と文献・資料用HP、議事録用HPを開設し、すでに活発な議論が始まっております。

同時に日本における語彙習得・語彙指導研究の活性化をはかることを目指しております。文献や資料の提供等のご協力をお願い致します。

(村田 年・千葉大)

研究会開催予定

JACET 英語辞書研究会例会 (協賛: JACET 基本語改訂委員会)

日時: 7月8日(土) 14:30—17:15

場所: 早稲田大学商学部9号館5階大会議室

講師・演題: 竹蓋順子(千葉大学)「語彙力を伴ったコミュニケーション能力の養成—複合システムの開発およびその指導効果について—」、相澤一美(東京電機大学)「リーディングにおける語彙の偶発学習」

参加費: 500円(どなたでも参加できます。)

問合せ先: 村田 年(電話: 047-423-5475)

教員公募

国際基督教大学英語教育プログラムでは次の要領で常勤講師1名、非常勤講師若干名を募集している。

1. 常勤講師

日本語を母語とする、TESOLおよび関連分野の修士号取得者。大学レベルでの教歴を有することが望ましい。英語で講義が出来、科目のコーディネート、教材や試験の作成などの責任を負うことのできる者。2001年4月から3年契約。その後、新たに5年の特任講師の契約可。

応募書類

英語で書かれた履歴書1通、推薦者3名の名前を含めること。

2. 非常勤講師

母語を問わず、週2日出講して講義と個人指導によってアカデミックライティングの指導が出来るもの。TESOLおよび関連分野の修士号取得者で、大学レベルでの教歴を有することが望ましい。英語で講義が出来る者。2001年4月から。

応募書類:

英語で書かれた履歴書1通、推薦者3名の名前を含めること。

応募締めきり:

常勤、非常勤ともに2000年9月14日必着。応募書類は原則として返送しない。

応募書類送り先:

181-8585

東京都 三鷹市 大沢 3-10-2

国際基督教大学 教養学部

英語教育プログラム主任 守屋靖代

問い合わせ: 0422-33-3393

moriya@icu.ac.jp

ICU is seeking part-time instructors who have the ability to teach academic writing and conduct classes and tutorials in English. The prospective candidate can be a native speaker of any language, but must have an MA in TESOL or related fields. Teaching experience at college level is strongly desired. Curriculum Vitae written in English including three references is required.

Application must arrive by 14 September 2000.

Send the application to:

Yasuyo Moriya

Director, English Language Program

International Christian University

3-10-2 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8585

0422-33-3393

e-mail. moriya@icu.ac.jp

編集: 広報通信委員会

(担当理事: 田中、委員長: 加藤)

これまで頂いたご意見をもとに、今回は文字を少し大きくし、字体を変更してみました。ご意見を頂ければ幸いです。またJACET通信では「最近のニュース」として英語教育界と関連する話題を適宜紹介して行きたいと思えます。情報をお持ちの方は委員長までご連絡ください。

(6月号編集担当: 加藤、小田)

Table of Contents

Foreword: Preparing for JACET National Conference in Okinawa (Mikio Namoto).....	1
Status-quo of College English Education and Significance of Conducting Its Survey in Japan (Ikuo Koike).....	2
Report s from the Headquarter (Hiromi Kobayashi).2	
Chapter Reports.....	3
Japanese Univ. Facing Changes.....	6
AAAL Report-Paradigm for the Study of Applied Linguistics toward the 21 st Century (Yasukata Yano).....	8
Monthly Meeting Reports.....	8
Basic Vocabulary Revision Committee Formed (Minoru Murata).....	9
Announcement from JACET Word Usage SIG.....	9
Position Available.....	10
(Editors: T. Kato, M.Oda)	

2000年6月30日発行©

発行者 大学英語教育学会 (JACET)

代表者 小池 生夫

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町 55

電話 (03) 3268 9698 FAX (03) 3268 9686

<http://www.jacnet.org>

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘 3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 (046) 251-5775